



寒くなってきました。あなたの足、大丈夫ですか？

末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症）について

恵木 康壮（心臓血管外科医長）

寒くなると足がしびれる、ふくらはぎがつる……。もう年だからしょうがないか……。そう思っている方、ちょっと聞いてください。それは血管の病気かもしれません。

以前は閉塞性動脈硬化症 (arteriosclerosis obliterans=ASO) といわれ、最近では国際的な表現の末梢動脈疾患 (peripheral arterial disease=PAD) といわれる病気です。簡単にいうと、動脈硬化で、血管が狭くなり、血流不足による諸症状が出現する状態です。典型的な症状は間歇性跛行（かんけつせいはこう）といって、歩いてしばらくするとふくらはぎや、太ももの後ろが痛くなってきます。少し休むと回復してまた歩けるようになります。ご自身で簡単に確認する方法は、足の甲に足背動脈というのがあり、その脈がしっかり触れる場合は問題ありませんが、触れない、もしくは左右で差があるなどの場合は動脈硬化が進んでいる可能性があります。この病気は進行すると、足に潰瘍ができたり、さらに壊死を起こし、場合によっては足を切断しなければならないこともあります。



足背動脈の位置

触診中

あるなどの場合は動脈硬化が進んでいる可能性があります。この病気は進行すると、足に潰瘍ができたり、さらに壊死を起こし、場合によっては足を切断しなければならないこともあります。



Vascular lab のスタッフら（右から2番目 恵木医長）

PADはどんな人がなりやすい？

50歳以上のたばこを吸っている男性が多いです。（女性の約8-9倍）その他の原因として、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、ストレスなどがあげられます。

PADの診断、治療は？

足を触って動脈の触れが弱い方はABI (Ankle Brachial Pressure Index) 検査を行います。これは足首と上腕の血圧を測定し、その比率（足首収縮期血圧÷上腕収縮期血圧）をみます。この比率が0.9未満は異常値でどこかに狭窄が疑われます。



ABI検査

PADはFontaine分類（フォンタイン分類）によってI～IV度に分けられ、治療法が決定されます。I度は「冷感、しびれ」、II度は「間欠性跛行」、III度は「安静時疼痛」、IV度は「潰瘍、壊疽」。すべての病期で、所謂「血液サラサラ」の抗血小板薬が必須であります。それに血管拡張薬を併用します。それでも病期が進行し、III、IV度の場合は「重症虚血肢」といい、カテーテルでの治療や、バイパスの手術が必要になってきます。手遅れになれば、下肢切断です。

当院ではVascular labを立ち上げ、あし外来（第1・3・5の火曜午後、第2・4の水曜午後）を開設しております。検査は低侵襲検査（トレッドミル、ABI、血管エコーなど）を行い、さらに必要であれば3D-CT、血管造影検査となります。

PADの患者さまは狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などを合併することが多いので、足だけでなく全身の管理に注意が必要です。”どうして足が痛いかな～”、といいながら一服している人、たばこを吸っている場合ではないですよ。足を取るか、たばこを取るか、よく考えてみてください。